



表 151 学区別の被災状況

(市学務課調査)

学区名 (連合町内会)	錦殿	錦西	向井	宿院	少林	南旅	湊	輪松	三空	錦陵	安井	神石	百舌	五ヶ	金岡	坂	以	颯尾	東百舌	深井	八田	浜寺	浜寺	浜寺	浜寺	総計
罹災戸数 (全焼のみ)	1,871	1,020	1,544	4,928	2,103	1,608	293	236	424	234	1,431	232	13			117	270	181		4		267	116		16,892	
罹災人員 (男女)	2,847 3,659	1,920 2,431	2,004 2,597	7,700 9,881	2,801 3,706	3,889 3,209	324 609	485 535	776 871	417 447	2,125 2,869	356 506	24 30			215 227	509 618	335 445		7 1		385 447	212 283		27,330 33,372	
死亡 (男女)	25 28	4 7	23 26	192 329	23 34	7 19	4 4	1 2	7 24	3 0	11 12	4 6	0 0			11 2	9 11	0 2		3 0		1 4	2 0		330 510	
行方不明 (男女)	34 1	0 0	7 13	286 484	4 9	0 0	0 3	52 123	0 3	0 0	0 1	0 0	0 0			0 0	0 0	0 0		0 0		0 0	0 0		383 637	
重傷 (男女)	62 12	6 1	25 1	18 35	10 8	3 5	0 2	11 4	10 8	0 0	2 2	4 1	0 0			1 1	4 11	1 11		1 0		3 1	4 0		108 115	
軽傷 (男女)	7 92	0 19	25 13	69 73	47 51	59 57	5 3	15 15	12 13	2 0	8 7	12 6	0 0			2 0	13 15	5 3		3 1		0 2	5 0		370 379	
残存戸数 (罹災前)	1,531	1,277	1,560	411	675	617	2,567	1,121	1,217	1,138	1,546	1,048	1,615	1,740	1,220	2,432	1,680	1,189	710	1,068	660	1,638	1,184	920	30,764	
罹災前 総戸数	3,402	2,297	3,104	5,339	2,778	2,225	2,860	1,357	1,641	1,372	2,977	1,280	1,628	1,740	1,220	2,549	1,950	1,370	710	1,072	660	1,905	1,300	920	47,656	

一般公共機関・施設の被害 堺税務署・堺郵便局・堺区裁判所・堺区検事局・傷痍軍人補導所・市内三等郵便局九局・府立堺高等女学校・堺国民労働員署・済生会病院堺分院・府立保健所がいずれも全焼し、このほか府立農学校の一部が焼失した。また電気・ガスに関する被害は、日本発送電の堺発電所が被弾して機械配線の一部を損傷した。さらに市内送電用電柱はほとんど焼失し、送電線は寸断された。ガスは橋梁焼失にともないガス管が破損し、焼失家屋のガス供給施設はほとんど破壊された。交通機関は近畿日本鉄道南海線堺東駅・堺駅・竜神駅および駐車中の車輛、近鉄バス車庫・堺交通会社がいずれも焼失した。通信機関は郵便局の焼失以外に電話線がほとんど切断し、焼失家屋の電話施設は全部破壊された。金融機関は帝国銀行・三和銀行・堺信用組合・庶民金庫堺支所・不動貯蓄銀行等が焼失した。報道機関は朝日・毎日、その他在堺各新聞社はいずれも全焼した。水道施設では、浅香山浄水場の送電線切断により一時送水に支障を生じたが、まもなく復旧し、七月一日午後二時には送水が可能になった。天王貯水池のポンプ場および公舎は直撃弾により焼失、神石ポンプ所公舎も同様焼失した。配水管は五か所折損し、一万戸以上におよぶ焼失家屋内の給水装置はほとんど破壊された。橋梁では吾妻橋・湊橋・中橋が焼失し、若口橋が一部焼失した。また市営造物の被害は表二三のとおりであった。

長持に一杯分を作り、疲れた身体を横たえ、前後も知らず寝入ってしまった。私は平常は早起きで、毎朝四時半頃には起きる習慣であるが、その日は、翌日岡田からの使いがくれば荷造りをしよう、打寛ろいだ気持ちで寝入ってしまったので、和歌山市が空襲で焼けているなどということは知るべくもなかった。ところが俄かに、ただならぬ物音に驚いてはね起きたときは、既に我が家は一面の火の海で、逃げ出そうとする、宵に出したままの掛軸類で足の踏場もない。そこらのものを手あたりしだい、辛じて親子四人相擁して大浜の方へ避難していったのであった。そのうちに夜があけた。それぞれ避難民に応急措置がとられ、私共の町内は英彰学校の講堂へ収容されることになった。時刻は八時頃だったかと思われる。ちょうど相生橋詰に製材所が残っていた。その地面や建物も私のものだったので、一まずここに落ちついて、朝昼かねての食事をすることが出来たが、嫁は罹災証明の交付を受けることなどで忙しかった。一時から今夜の宿所にきまった高等工業へ行くことになった。この時私はとにかく岡田へ行こう、藤井寺までは三里ばかりだから、ゆっくりと歩いても十分に行けると思った。嫁は私の身を案じてしきりにとめるが、決心して行くことにした。学校を出て一人でポツポツと東へ東へと辿っていった。道みち、この路になって、何とまあ、えらい目に遭ったものだ、情なく思いつつ、阪和線の金岡までくると、電車が走っているの、これは有難いと、早速電車で天王寺へいくことにした。この電車は和歌山から始めて大阪へ行くものだった。そこで阿倍野橋から長野行に乗替えた。私は考えが違って、藤井寺での下車はやめ、そのまま長野に直行した。長野の西条家は私の長女の嫁ぎ先であるので、そこへ一まず落ちついた。そこから藤井寺の岡田を始め、心配してくれと思う縁者へ無事立退きを電話で知らせた。そして、そこで弁当を作ってもらって、堺に残した嫁と孫を迎えに出させた。午前九時頃に孫達は長野へ安着したので、やれやれと思った。(中略)嫁の話では高等工業に収容されたものは六、七千もあるとのことだった。私はこうして蚊にも喰われず安眠することが出来たことは有難いと思った。またあの猛火の中を脱出して、誰一人家族のものにけがもなく避難し得たのは、まことに不幸中の幸いとひそかに感謝した。白檀の木を目印にやってきたが、もうこの木も焼失して何も見えないので、空しく引揚げるより仕方なかった。この前に荷を出していたら、少しは残ったものもあったのだが、何としても貴重なものを助からず焼失してしまったのはまことに遺憾であるが、これも焼ける因縁であったとあきらめるより外ない。(古家太郎兵衛談 精方梅歌筆録)

罹災面積・罹災者数 罹災した面積は約二万六千坪に達し、これを堺市域総面積一六〇三万三、三二七坪に比すると、その一四％にあたり、旧市域の三六万三、五八五坪の六二・一％に相当する。戦災戸数・人口・死傷者の調査は各機関により行なわれたが、なにぶん広範囲であって、罹災者数も驚異的数字に達したため、各機関の調査結果は必ずしも一致しなかった。ここでは各調査を比較検討して、まず正確と認められるものを表二三に掲げることとした。

市関係者の被害 市名譽職および市吏員で戦災をこうむったものは相当多数に上った。(略)戦災学童で両親あるいは保護者に死別し孤児となった者は九名(市校三・英彰校三・殿馬場校二・安井校一)、引取人のない者五名(殿馬場校三・英彰校二)を生じた。市ではこのうち二名を九月一日から浅香山学園に入寮させ、三名は親戚に引取られた。